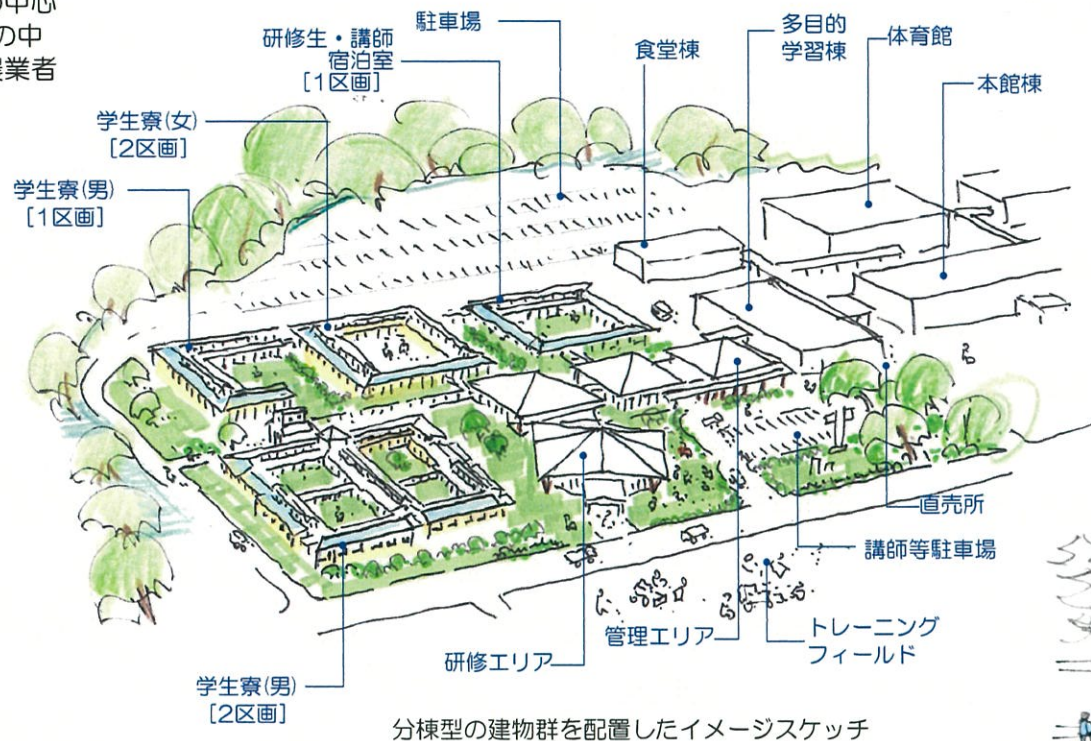


荒れ野を開拓し、豊潤な大地となった『田園の町、矢吹』の中心に位置し、80年以上の歴史の中で、地域のリーダーとなる農業者を育成してきた。

【5つの教育の特色】

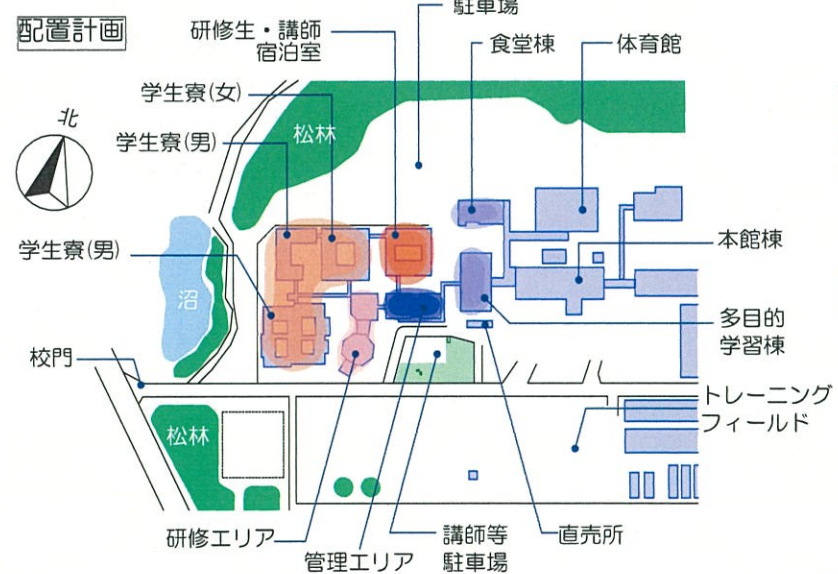
- 一般教養に加え、農業経営に関する基礎的知識の習得
- 農業に関する知識及び技術の習得
- 経営シミュレーションによる総合的な実践力の習得
- 地域農業をけん引するために必要な知識の習得
- 国際化に対応した幅広い視野の習得

上記をふまえ、新しい時代にふさわしい学校へ機能強化し、先人たちの想いを未来に繋ぎ、風土に調和した場を計画する。



分棟型の建物群を配置したイメージスケッチ

提案課題(2) 良好な教育・研修環境の中で学生や研修生が快適に過ごせる施設の在り方



■バランスの取れた配置

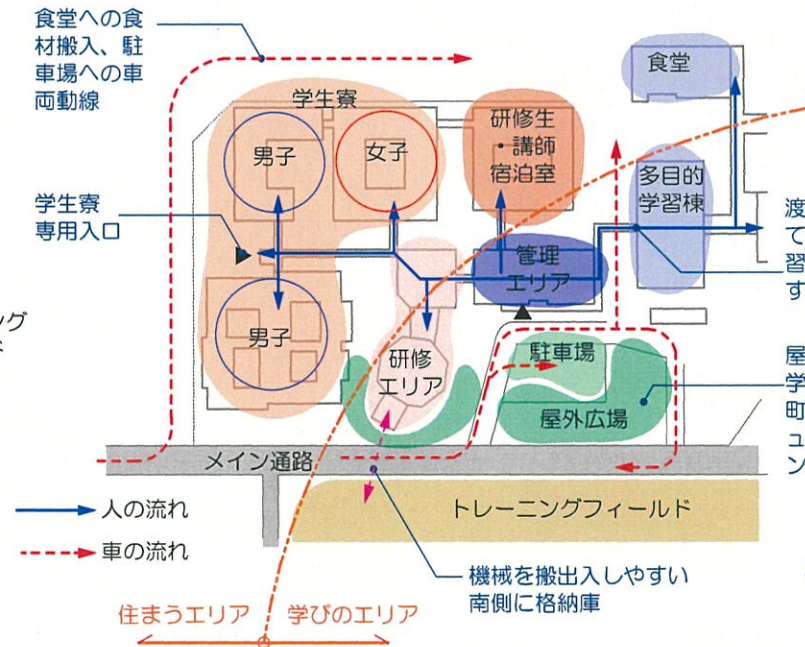
- 限られた敷地の中で、適度な隣棟間隔を確保する。
- 動きのある学びのエリアと静かな空間の住むエリアを分けたゾーニングとし、学びのエリアは既存建物に近い位置とする。
- 外部の渡り廊下にて、既存建物と連続し、まわりの環境を含めたバランスの取れた配置としている。

■各エリアは渡廊下にて連続している

- 学生寮エリア、教育研修エリア、管理エリア、を人が動きやすく分かりやすい動線としている。

■生徒が安心して生活できる

- 防犯等に配慮し、セキュリティに配慮した建物とする。
- 各生活エリアの各棟の出入口にアクセスゲートを設ける
- 外来者など人の動きが見やすい位置に玄関をもうけ、警備室を配置する。



■スマート農業研修室は、広場の中に配置している

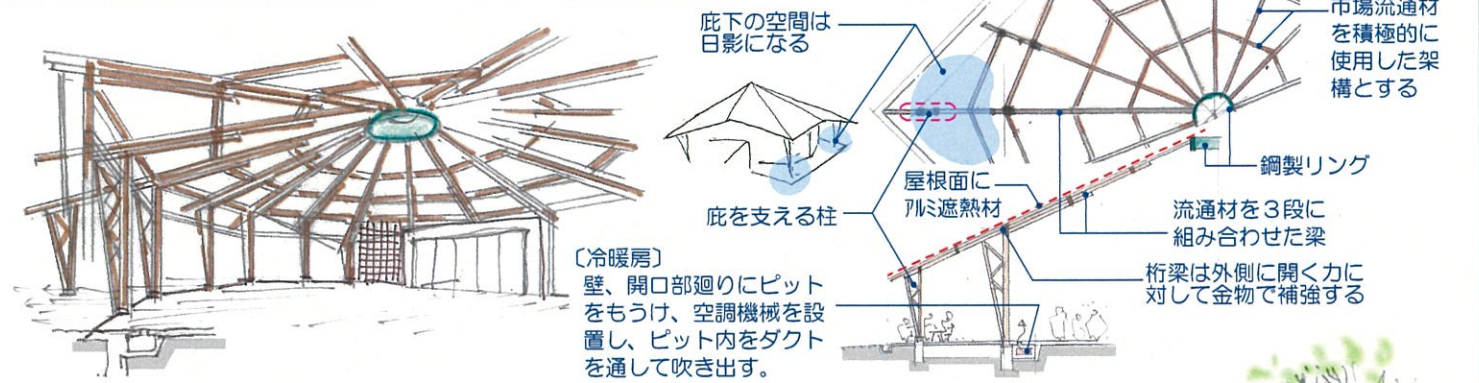
- 最新機種やAIの技術、経営管理を学ぶ教室として、広場に開かれている。
- 学生、研修生、農業関係者だけでなく、農業に関心のある人々を呼び込む開かれた空間構成とする。
- 最新のスマート農業機械など外部から搬入しやすい位置に配置する。

■学習、研修など一日を過ごす場を快適にする

- 風が流れ、日の光が入る隣棟間隔を確保する配置としている。

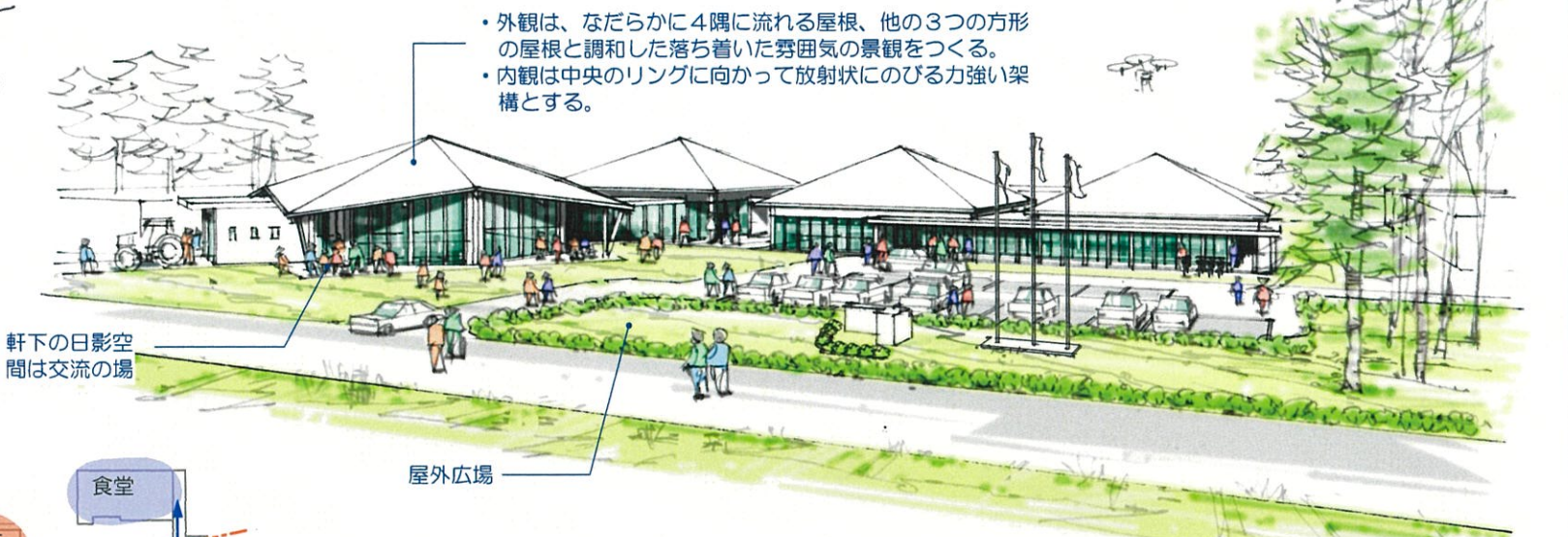
提案課題(4) 伝統と革新、地域に配慮した意匠、県産材の積極的な活用とエネルギー性能が高く持続可能性に優れた施設の在り方

■8本の柱が支える八角形の架構・・・(スマート農業研修棟)



スマート農業研修室の架構(構造)形式のイメージスケッチ

架構断面のイメージスケッチ



広場に建つスマート農業施設と連続する管理エリアのイメージスケッチ

・・・4つの方形の屋根が連なる・・・

- 高断熱(遮熱)建築
  - アルミ遮熱材を使用して輻射熱を遮断し冷暖房効率を大幅に上げる。(屋根、壁面に使用)

- 自然エネルギー建築
  - 太陽光パネルで電気をつくる。一部太陽熱パネルで温水をつくる

- 省エネ設備
  - LED照明や高効率機器を採用し維持費を下げる

- 省エネ建築
  - Low-e<sup>®</sup> ガラスを使用し開口部からの熱損失を低減する



寮室のラウンジ、水廻りの断面イメージ

両側に寮室のある中廊下の断面イメージ

■再生可能エネルギーの活用

- 屋根面の太陽熱パネルで温水を作り、浴室の給湯や冷暖房に利用し20%の省エネルギー化を図る。
- 太陽光パネルを設置し照明器具等に使用する。蓄電池を設置することにより災害時に備える。
- 自然光や地域特有の風の流れを室内に取り入れ空気循環で冷房エネルギーを10%削減する。

■維持管理の容易性

- 外壁、屋根などの外装は耐久性のあるものを採用し永く使用できる建物とする。
- 水回りの機能をまとめて配置する。
- 配管ピットや天井裏の配管スペースを広く確保し点検、改修を容易にする。
- 一部配管は室内に露出させ、修繕や更新をしやすい計画とする。



提案課題(1) 福島県農業の持続的発展に向けた先端技術(スマート農業)を学べる施設の在り方

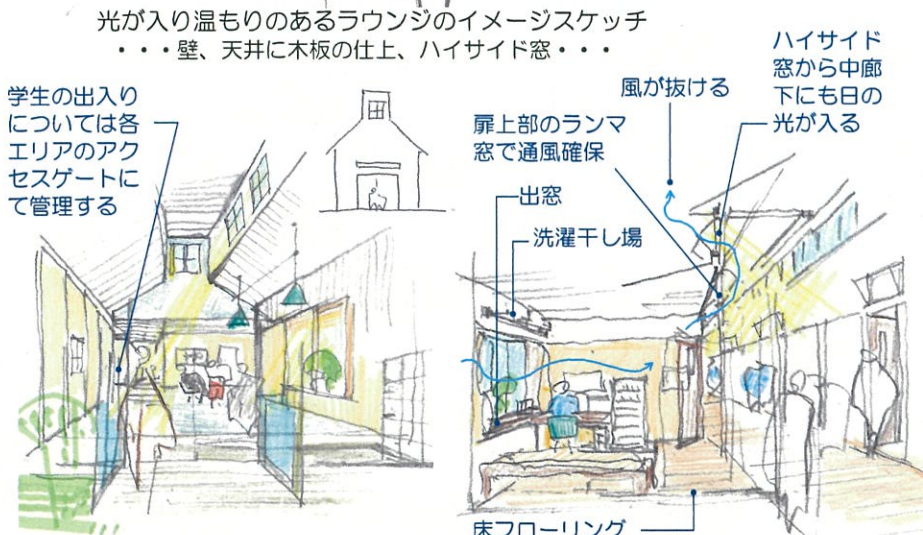
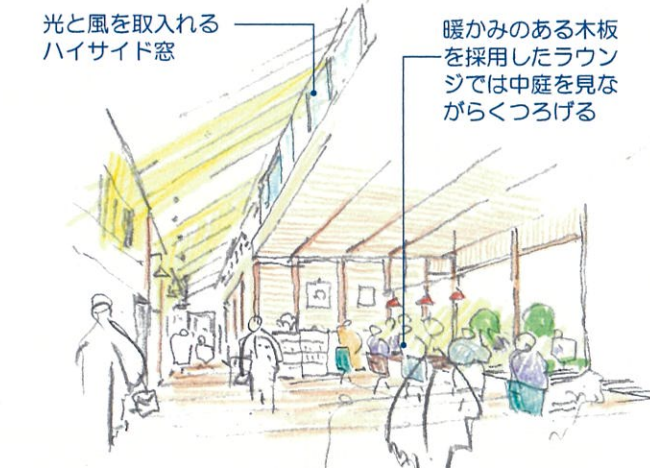
提案課題(3) 学生等の自らの学びと農業者、指導者等と多様な交流を促す施設の在り方

平面計画について

- 敷地中央にスマート農業研修室、研修ゼミ室を一体としたエリアとした。スマート農業機械を外部通路へ搬入、搬出しやすい位置に機械格納庫をもつ。
- 研修ゼミ室と連続させ東側に管理エリアを配置する。
- 生活エリアの学生寮は、西、北側に配置する。
- 各エリアは渡り廊下にて連続した分棟とし、日の光、風の流れなどに配慮した隣棟間隔を確保する。

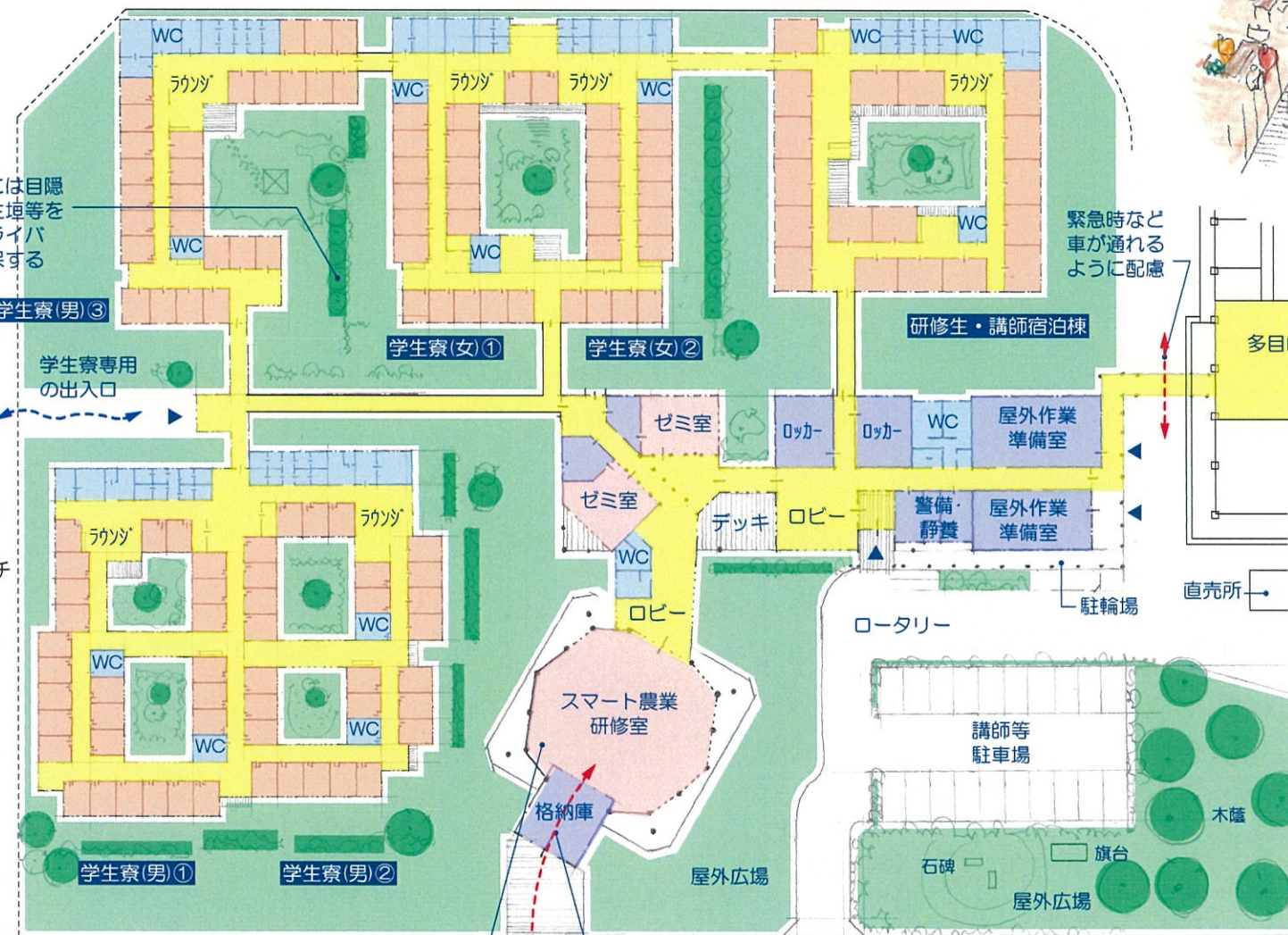
- 管理エリアは、玄関をはさんでロビー、警備室、静養室をもうける。ロッカー室、シャワー室、トイレ、更衣室を備えた屋外作業準備室を男女別にもうけ、ほ場への出入口を設ける。
- 外廊下を通り、既存の多目的学習棟へ接続し、本館、食堂への通路とする。

- 学生寮は南、東、西側に可能な限り配置する。北側配置となった居室は天窓を確保するなど配慮する。
- 水廻りは、北側に集約する。
- トイレは動線が短くなるよう分散配置する。
- ラウンジ以外にもテーブルを置けるコーナーをつくり学生に多様な居場所を提供する。



学生寮専用玄関のイメージスケッチ  
・・・高窓から光の入る語らいの場・・・

居室と廊下のイメージスケッチ  
・・・出窓のある落ち着いた雰囲気のある居室・・・



町の中心部に位置するこの施設では、地域の住民も気軽に訪れ、学ぶことができる

施設内にスマート農業機械を搬入しやすいように直線的動線とする

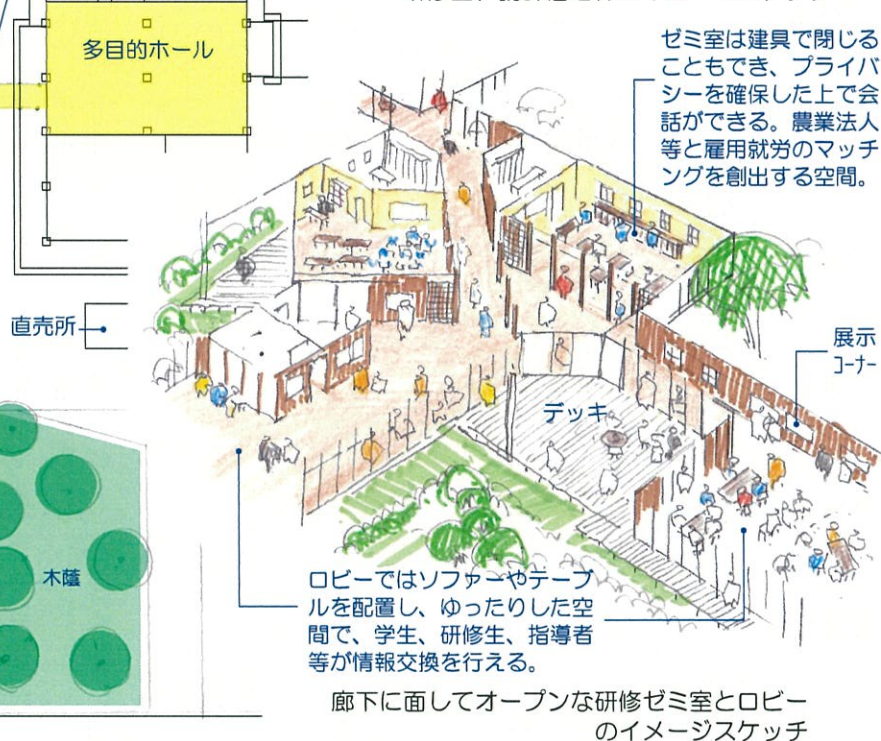
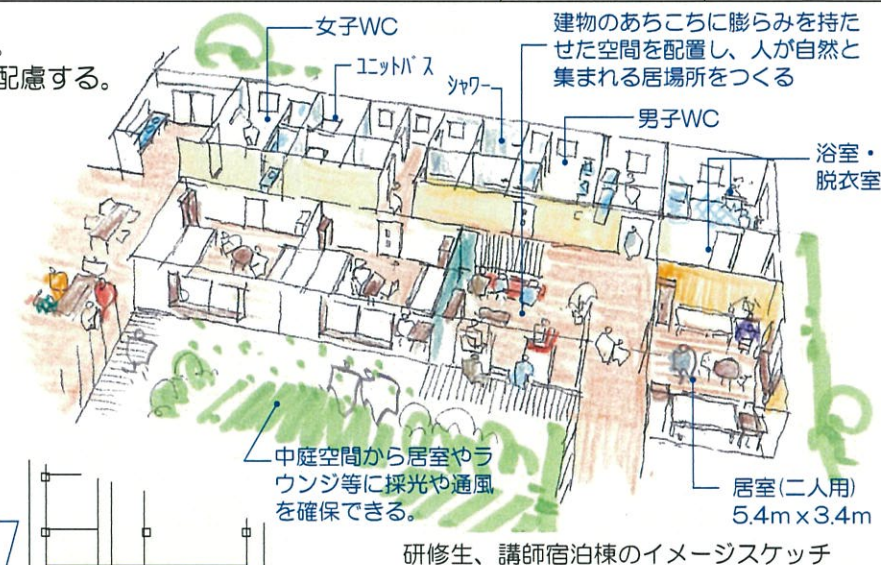
■多様な学びに対応した八角形の平面構成  
・プロジェクターを使用した学習、円形になった学習など多様な学びに対応する。

放射状に伸びる力強い木の架構、外部の交流の場など広がりのある木質の魅力的な空間デザインとする。

プロジェクターを投影しやすい壁面を配置し新しい教育、研修スタイルを実現する



スマート農業機械研修室のイメージスケッチ  
・・・八角形の学びの場は囲みスタイルの授業に適した空間・・・



提案課題(5) その他本施設の計画において特に重要と考える提案

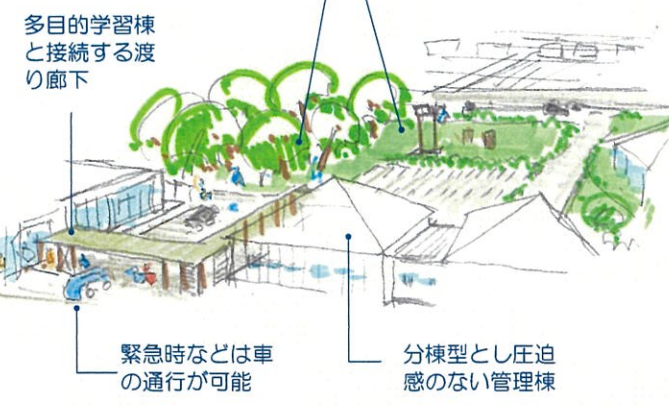
・移動距離を少なくする  
多目的学習棟の学生ホールに渡り廊下を接続し、生徒の移動がしやすい平面計画とする。

・地域の人々との交流スペース(屋外広場)

隣接する直売所と屋外広場を地域住民に開放する。点在する樹木の木陰では、学生と地域住民がふれあい、人とのコミュニケーション能力を養う場となる

・コスト削減の提案  
生活エリアの構造体はシンプルな在来木造とし、大空間のスマート農業研修室は、市場流通材(県産材)を組合せ構造体を構成する。

屋外広場や木蔭は学生たちが休憩したり語らう場となる



地域住民との交流が生まれる屋外広場のイメージスケッチ